# 平成 28 年度 伴走型小規模事業者支援推進事業

# 地域経済動向調査報告書

# 目次

I . 真岡市の経済動向	1
1. 人口動態	1
(1)人口の推移	1
(2-1)高齢化率の推移	3
(2-2)年代別人口割合	4
(2-3)真岡市内の人口構成	5
(2-4)真岡市の世帯数の推移	6
(3-1)人口増減の推移	7
(3-2)転出入動向	8
(3-3)出生数	8
(3-4)栃木県の転出入動向	10
2 . 経済動向	11
(1-1)地域経済循環状況	11
(1-2) 就業者数とその産業構成	13
(1-3) 真岡市の産業	15
(1-4) 真岡市の建設業	16
(2-1)真岡市の製造業	17
(2-2) 製造業における従業者	19
(2-3)製造品出荷額	20
(2-4)製造業の労働生産性	21
3. 真岡市の商業	22
(1-1) 商業の年間販売額の推移	22
(1-2)商業の事業所数の推移	23
(1-3)商業の従業者数の推移	24
(1-4)卸売業の事業所数	25
(1-5)小売業の店舗数	26
(1-6)小売業の従業者数の推移	27
(1-7) 真岡市の黒字赤字企業比率と創業比率	28
まとめ	29
Ⅱ. 栃木県の情報	30
1. 県民経済計算	30
2. 市町村民経済計算	36
3. 栃木県の工業製品、農産物	42
4	44

Ⅲ. にのみやプレミアム商品券に対する評価	46
1. にのみやプレミアム商品券加盟事業者アンケート	46
(1) 調査の概要	46
(2-1) にのみやプレミアム商品券加盟事業者の状況	46
(2-2) にのみやプレミアム商品券の利用状況	49
(3) まとめ	55
2. にのみやプレミアム商品券利用者アンケート	56
(1) 調査の概要	56
(2-1) にのみやプレミアム商品券利用者の状況	56
(2-2) にのみやプレミアム商品券の利用状況	59
(3) まとめ	65
3. アンケート項目	66
(1) にのみやプレミアム商品券加盟事業者向けアンケート用紙	66
(2) にのみやプレミアム商品券利用者向けアンケート用紙	68

#### I. 真岡市の経済動向

#### 1. 人口動態

#### (1) 人口の推移

真岡市の2015年の総人口は、総務省統計局が2016年10月26日に公表した国勢調査結果によると79,539人。5年前と比べると3.3%の減少。国立社会保障・人口問題研究所が2010年までの国勢調査に基づくトレンドから予測した2015年人口より1,539人(1.9%)少なく、予測よりわずかに下振れしている。2010年のトレンドから見込まれる人口減少よりわずかにテンポが速くなっている。

上記の「将来推計人口(2013 年 3 月推計)」によると、今後 2015 年から 2040 年までにはさら に 12.0%減少し、約 7.0 万人となる見込み。このとき平均年齢は、2015 年の 45.2 歳から 4.4 歳上昇し、2040 年は 49.6 歳となる。

なお、「平成20年~24年 人口動態保健所・市町村別統計」(厚生労働省)によると、真岡市の2008年~2012年における赤ちゃんの出生数は、年平均で723人。人口千人当たりでは9.2人(全国平均8.4人)となり、全国の1,741市区町村中254番目。同期間の1人の女性が生涯に産む平均子供数を推計した合計特殊出生率では1.54で606番目。

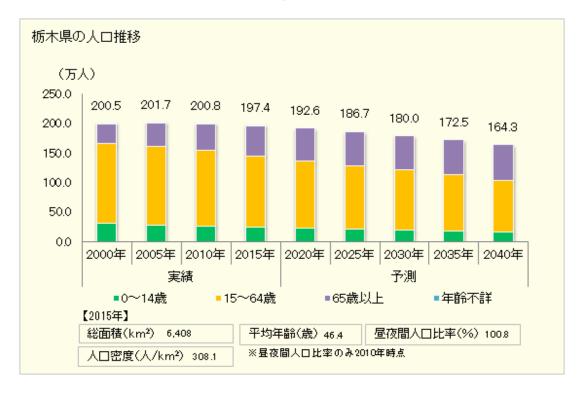
ちなみに、婚姻件数及び離婚件数は、それぞれ人口千人当たり5.5件(全国平均5.5件)、1.84件(全国平均1.94件)となっている。

また、「平成 22 年市区町村別生命表」(厚生労働省)によれば、2010 年の真岡市の平均寿命(0 歳児の平均余命)は、男性が全国平均よりも 0.3 歳短い 79.3 歳、女性も全国平均より 0.7 歳短く、85.7 歳となっている。



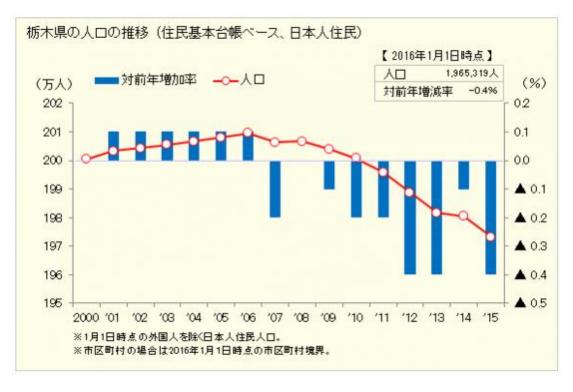
図表:真岡市の人口の推移(国勢調査ベース)

図表:栃木県の人口の推移(国勢調査ベース)



出典:「GD Freak!」(jp.gdfreak.com)

図表:栃木県の人口の推移(住民基本台帳ベース)



出典:「GD Freak!」(jp.gdfreak.com)

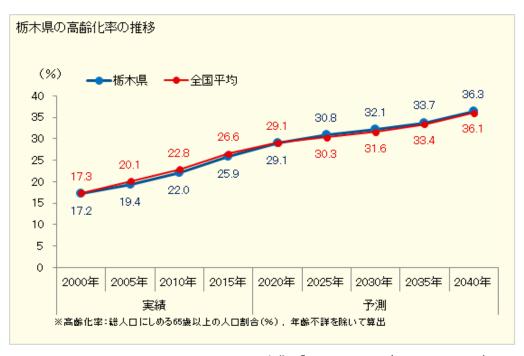
#### (2-1) 高齢化率の推移

真岡市の 2015 年の総人口にしめる 65 歳以上の割合(高齢化率)は 23.9%。全国平均 (26.6%) よりも 2.7 ポイント低い。全国市区町村 (2016 年 10 月 1 日現在 1,741、ただし東京 23 区を含む) の中で低い方から 209 番目。今後、高齢化率は 2040 年までに 9.3 ポイント上昇し、33.2%に達し、おおよそ 10 人に 3 人が高齢者になると見込まれる。

真岡市の高齢化率の推移 (%) **一**真岡市 → 全国平均 40 36.1 33.4 31.6 35 30.3 29.1 26.6 30 33.2 30.9 22.8 29.9 25 28.9 20.1 27.0 17.3 20 23.9 19.7 15 17.7 16.3 10 5 0 2000年 2005年 2010年 2015年 2020年 2025年 2030年 2035年 2040年 予測 ※高齢化率:総人口にしめる65歳以上の人口割合(%),年齢不詳を除いて算出

図表:真岡市(上)と栃木県(下)の高齢化率の推移

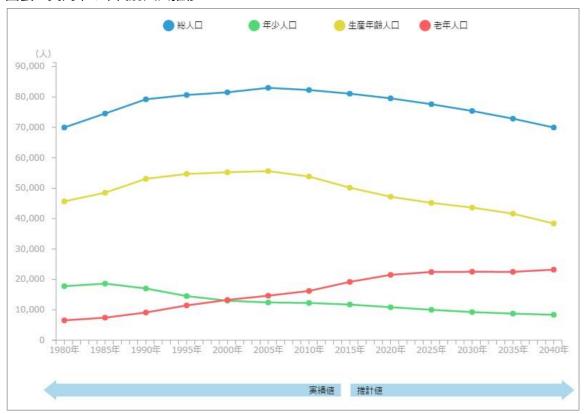
出典:「GD Freak!」(jp.gdfreak.com)



# (2-2) 年代別人口割合

真岡市の総人口に占める年代別人口割合について、2015 年と 2040 年の推計値で比較すると、 生産年齢人口は 61.8%から 54.8%に、年少人口は 14.4%から 11.9%に減少する一方、老年 人口は 23.9%から 33.2%に増加すると見込まれる。

図表: 真岡市の年代別人口推移



#### (2-3) 真岡市内の人口構成

2016年1月1日における真岡市の総人口は77,905人(外国人を含む)で、男性が39,310人、女性が38,595人。そのうち65歳以上の高齢者は24.4%を占め、人口の4.1人に1人が65歳以上、8.9人に1人が75歳以上で、高齢者(65歳以上)と生産年齢人口(15~64歳)の比率は、1対2.5となっている。つまり、若者ないし壮年または中年の2.5人がひとりの高齢者を支える社会となっている。ちなみに全国平均では2.3人にひとりの割合。

また、出産や子育ての中心となる若い女性に着目すると、20歳~39歳の人口は、8,249人で、総人口の10.6%で、全国平均(10.9%)にほぼ近い割合となっている。

図表:真岡市の人口構成



# (2-4) 真岡市の世帯数の推移

2010 年(平成 22 年)以降、男女ともに人口は微減しつつある。2017 年(平成 29 年)1月1日時点では男女ともに微増し、世帯数は 28,584 世帯。前年からプラス 10.1%、550 世帯の増加。 真岡市全体の総人口は落ち込みを見せているが、世帯数は回復傾向にある。

図表: 真岡市の世帯数の推移

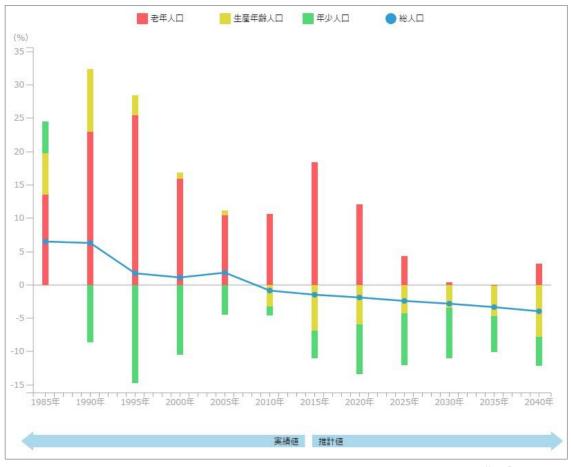
	男性	女性	総人口	世帯数
H22年1月1日	41,891	40,922	82,813	28,064
H23年1月1日	41,354	40,904	82,258	27,583
H24年1月1日	40,972	40,701	81,673	27,599
H25年1月1日	40,701	40,457	81,158	27,735
H26年1月1日	40,564	40,246	80,810	27,942
H27年1月1日	40,499	40,271	80,770	28,270
H28年1月1日	39,915	39,565	79,480	28,034
H29年1月1日	40,049	39,611	79,660	28,584

出典:真岡市ホームページより作成

# (3-1) 人口増減の推移

2005年以降、真岡市の総人口とともに生産年齢人口もマイナスに転じ、以降下がり続けている。 2009年の旧二宮町編入時も特に上昇を見せてはいない。

図表:真岡市の人口増減



※生産年齢人口… 年齢別人口のうち労働力の中核をなす 15歳以上 65歳未満の人口層

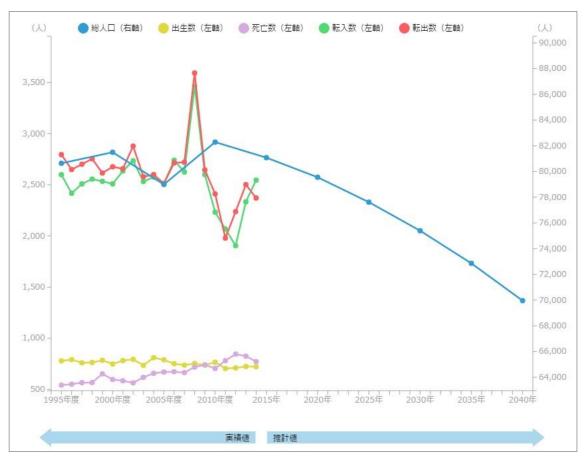
#### (3-2) 転出入動向

真岡市の転出入動向をみると、2006年以降は転出数が上回る状況が続いていたが、2014年には転入数が上回った。年齢階級別純移動数に見るように、特に 0~14 歳の若年層の増加が目立った。

#### (3-3) 出生数

真岡市の 2014 年の出生数は 722 人で前年から 2 人の減少。 2010 年の 766 人をピークに減少が続いている。

図表: 真岡市の出生数・死亡数/転入数・転出数

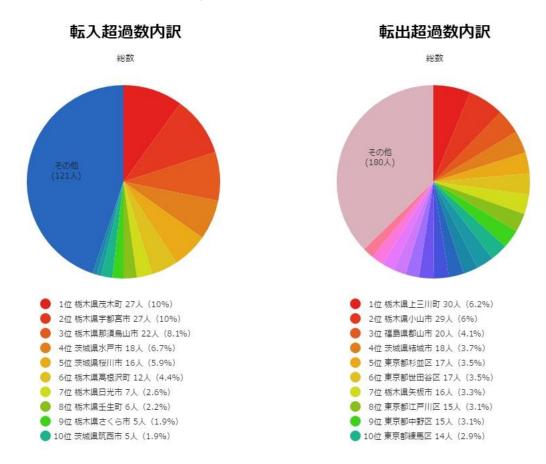


図表:真岡市 年齢階級別純移動数



出典:「RESAS」

図表: From-to 分析(定住人口) 2015年



# (3-4) 栃木県の転出入動向

栃木県全体では、転出が転入を上回る状況が続いており、東京圏への人口流出が顕著となっている。

図表:栃木県 地域ブロック別純移動数



#### 2. 経済動向

#### (1-1) 地域経済循環状況

図は「生産(付加価値額)」「分配(所得)」「支出」の三段階を表すもので、地域経済の全体像と各段階におけるお金の流出・流入の状況を把握する図である。

「地域経済循環率」とは、生産(付加価値額)を分配(所得)で除した値であり、地域経済の 自立度を示している。(値が低いほど他地域から流入する所得に対する依存度が高い。)

「生産」は地域が生産した商品やサービス等を販売して得た金額から、原材料費や外注費といった中間投入額を差し引いた付加価値額を第 1~3 次産業別に把握する。

「雇用者所得」とは、主に労働者が労働の対価として得る賃金や給料等をいう。

「その他所得」は、財産所得、企業所得、交付税、社会保障給付、補助金等、雇用者所得以外 の所得により構成される。

「その他支出」は、政府支出、地域内産業の移輸出入収支額等により構成される。

「支出流出入率」とは、地域内に支出された金額に対する地域外から流入・地域外に流出した金額の割合で、プラスの値は地域外からの流入、マイナスの値は地域外への流出を示す。

真岡市の地域経済循環率は 102.3%と、栃木県全体の 100.2%を上回る。地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値額は順当に雇用者所得・その他所得へ分配されている一方、支出流出入率は民間消費マイナス 15.5%、民間投資マイナス 12.3%となっており、地域住民の消費等の地域外への流出を抑えることが地域経済自立のカギと言える。

図表:真岡市の地域経済循環図(2010年)単位:億円

地域経済循環図 地域経済循環率 2010年 102.3% 指定地域:栃木県真岡市 分配 (所得) 地域外からの 所得への分配 所得からの支出 (億円) 3,456 3,534 2,000 生産(付加価値額) 支出 (億円) (億円) 雇用者所得 その他所得 339億円 1,400 1,200 1,000 800 支出による生産への還流 3,534 490億円 第1次產業第2次產業第3次產業 民間消費額 民間投資額 その他支出

図表:栃木県の地域経済循環図(2010年)単位:億円

地域経済循環率 100.2%

# 地域経済循環図 2010年

指定地域:栃木県



出典:「RESAS」

図表: 真岡市と栃木県全体の産業別経済循環と生産状況比較(2010年)

付加価値額(一人当たり)	第1次産業	第2次産業	第3次産業
真岡市	245万円	868万円	905万円
栃木県全体	255万円	962万円	805万円

所得(一人当たり)	雇用者所得その他所得	
真岡市	447万円	191万円
栃木県全体	432万円	183万円

支出流出入率	民間消費	民間投資	その他支出
真岡市	-15.5%	-12.3%	69.0%
栃木県全体	-7.3%	-9.2%	28.2%

出典:「RESAS」より作成

#### (1-2) 就業者数とその産業構成

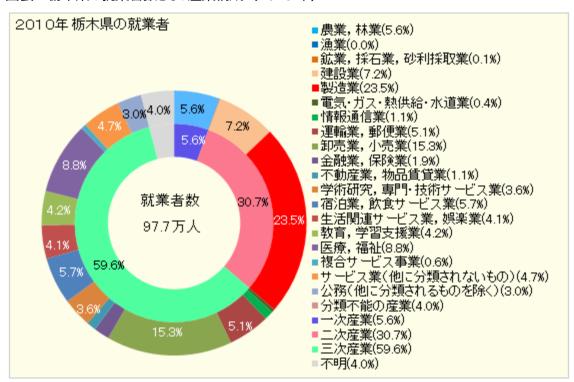
このグラフは真岡市の 2010 年における就業者数とその人たちがどのような産業分野で働いているかを示す。

当年の全就業者数は 42,119 人で、その内訳(不明を除いて計算) は農林水の第一次産業が 10.8%(全国:4.2%)、建設業と鉱工業からなる第二次産業が 39.5%(全国:25.2%)、残り 49.7%(全国:70.6%)が第三次産業となっており、全国の産業構成と比べると、第二次産業の割合が高いことが特徴といえる。

図表:真岡市の就業者数とその産業構成(2010年)



図表:栃木県の就業者数とその産業構成(2010年)



出典:「GD Freak!」(jp.gdfreak.com) 2016.12.12

#### (1-3) 真岡市の産業

真岡市の 2014 年における企業数は、各業態ともに栃木県および全国平均と概ね合致する割合を占めているものの、建設業と製造業の比率は、建設業が多い。

図表: 真岡市の企業数割合(2014年)

# 企業数(企業単位) 2014年

指定地域:栃木県真岡市

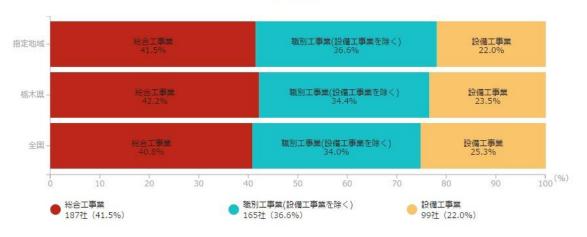


# (1-4) 真岡市の建設業

真岡市の建設業における割合は総合工事業(41.5%)、職別工事業(36.6%)、設備工事業(22.0%)で、およそ全国平均や栃木県平均と同様の割合を占めている。

図表: 真岡市の製造業内訳(2014年)

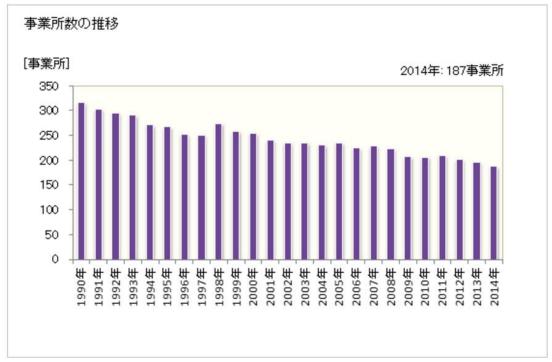
# 建設業



#### (2-1) 真岡市の製造業

2014年における真岡市の製造業の事業所数は前年比4.6%減の187事業所。3年連続の減少。2014年において最も事業所数が多い業種は、金属製品製造業の34事業所。次いで多いのは輸送用機械器具製造業(20)、プラスチック製品製造業(18)、食料品製造業(17)、窯業・土石製品製造業(16)。

図表: 真岡市の製造業事業所数の推移(2014年)



# 図表: 真岡市の製造業の割合

# 製造業

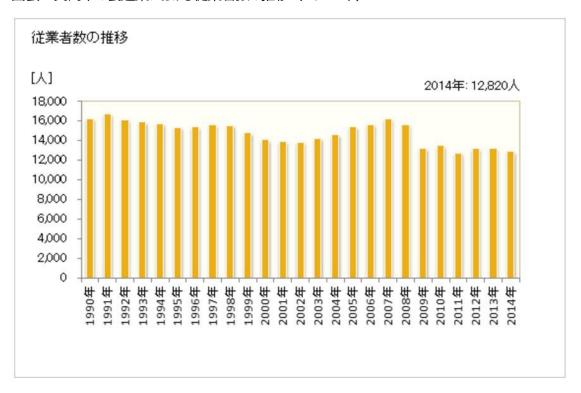


#### (2-2) 製造業における従業者

2014年における真岡市の製造業の従業者数は前年比 2.7%減の 12,820 人。前年より減少となったのは 3 年ぶり。2014年において最も従業者数が多い業種は、輸送用機械器具製造業の3,161人(製造業全体の24.7%)。次いで多いのは、非鉄金属製造業(1,659人、12.9%)、プラスチック製品製造業(1,504人、11.7%)、金属製品製造業(1,093人、8.5%)。

2010 年国勢調査によると、真岡市の全産業の就業者に占める製造業就業者の割合は 32.0%(全国平均 16.1%)。

図表:真岡市の製造業における従業者数の推移(2014年)



#### (2-3) 製造品出荷額

2014年における真岡市の製造業の製造品出荷額等は前年比 0.5%減の 5,511 億円。前年より減少となったのは 3 年ぶり。2014年において最も出荷額等が多い業種は、非鉄金属製造業の 1,605億円(製造業全体の 29.1%)。次いで多いのは、輸送用機械器具製造業(989億円、17.9%)、金属製品製造業(699億円、12.7%)、プラスチック製品製造業(506億円、9.2%)。

図表: 真岡市の製造品出荷額等の推移(2014年)



### (2-4) 製造業の労働生産性

2014年における真岡市の製造業の労働生産性(1人当たり粗付加価値額) は前年比 11.2% 減の 1,058 万円/人。前年より減少となったのは 3年ぶり。2014年では全国平均の 78.9%の水準。





出典:「GD Freak!」(jp.gdfreak.com)

※労働生産性とは、従業員一人当たりの付加価値額を言い、付加価値額を従業員数で除したもの。 労働の効率 性を計る尺度であり、労働生産性が高い場合は、投入された労働力が効率的に利用されていると言える。

※中小企業新事業活動促進法による付加価値額の式

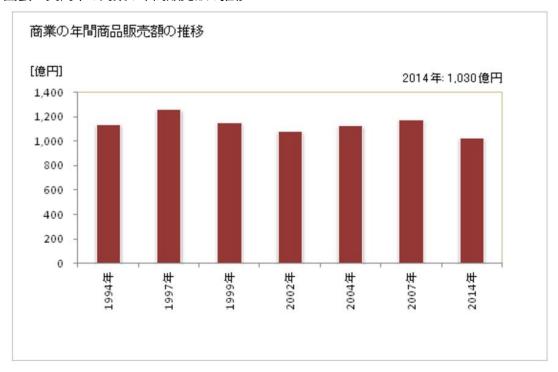
付加価値額 = 営業利益 + 人件費 + 減価償却費

#### 3. 真岡市の商業

# (1-1) 商業の年間販売額の推移

2014 年の商業の年間商品販売額は 1,030 億円。1994 年以降の調査の中で最も大きい 1997 年に比べると 81.6%の水準まで減少。また 7 年前の 2007 年に比べてもマイナス 12.5%、147 億円の減少。

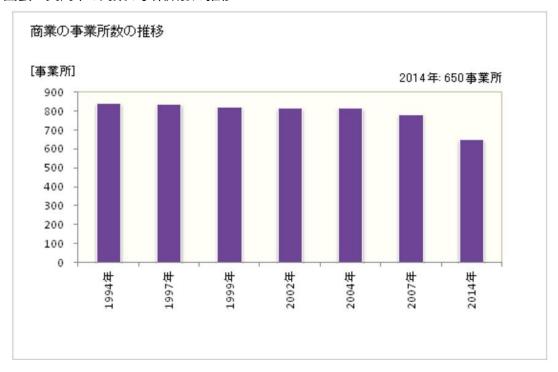
図表: 真岡市の商業の年間販売額の推移



# (1-2) 商業の事業所数の推移

2014年の商業の事業所数は 650 事業所。1994年以降の調査の中で最も多い 1994年に比べると 77.2%の水準まで減少。また 7年前の 2007年に比べてもマイナス 17.0%、133事業所の減少。

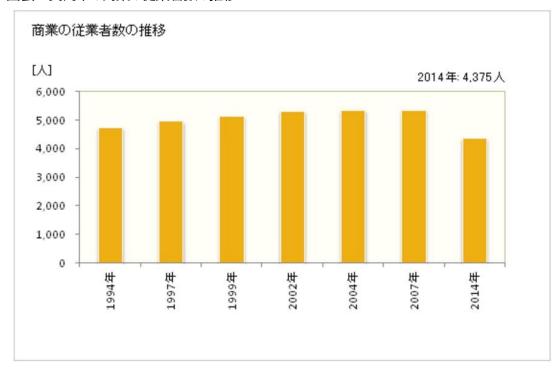
図表: 真岡市の商業の事業所数の推移



# (1-3) 商業の従業者数の推移

2014年の商業の従業者数は 4,375人。1994年以降の調査の中で最も多い 2004年に比べると 81.6%の水準まで減少。また 7年前の 2007年に比べてもマイナス 18.1%、970人の減少。

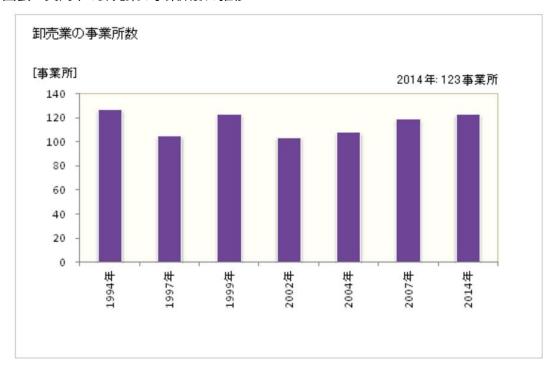
図表: 真岡市の商業の従業者数の推移



# (1-4) 卸売業の事業所数

2014年の卸売業の事業所数は 123 事業所。1994年以降の調査の中で最も多い 1994年に 比べると 96.9%の水準まで減少。だが、7年前の 2007年の調査に比べるとプラス 3.4%、4事業 所の増加。

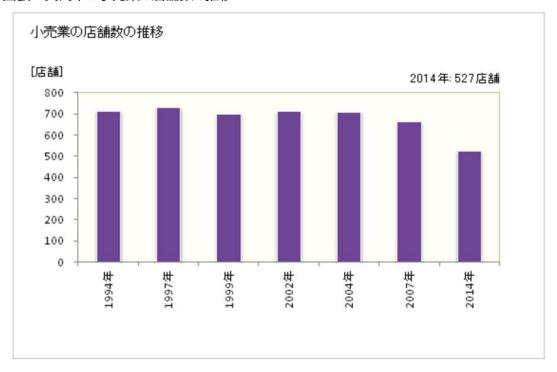
図表: 真岡市の卸売業の事業所数の推移



# (1-5) 小売業の店舗数

2014年の小売業の事業所数は 527店舗。1994年以降の調査の中で最も多い 1997年に比べると 72.0%の水準まで減少。また 7年前の 2007年に比べてもマイナス 20.6%、137店舗の減少。

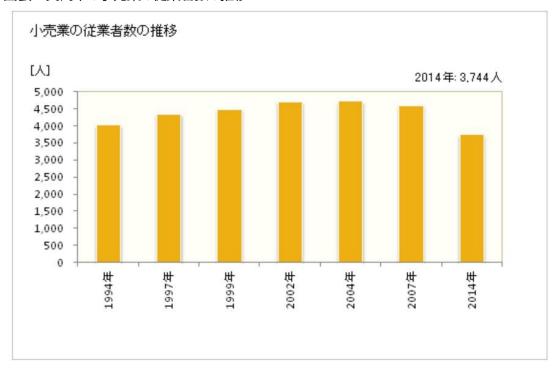
# 図表: 真岡市の小売業の店舗数の推移



# (1-6) 小売業の従業者数の推移

2014年の小売業の従業者数は 3,744 人。1994年以降の調査の中で最も多い 2004年に比べると 79.3%の水準まで減少。また 7年前の 2007年に比べてもマイナス 18.7%、861 人の減少。

図表: 真岡市の小売業の従業者数の推移



#### (1-7) 真岡市の黒字赤字企業比率と創業比率

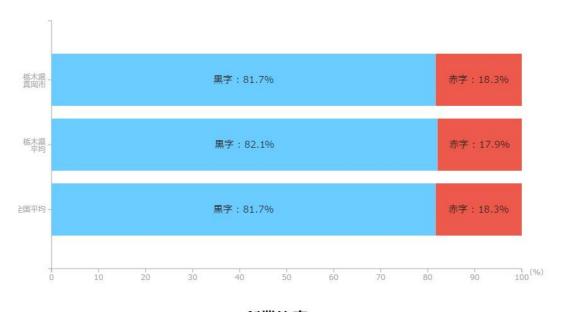
2012年の黒字赤字企業比率は県平均・全国平均と拮抗。

創業比率は2009年から2012年にかけて県平均・全国平均を下回った。数値としては回復傾向にあるが、地域の更なる雇用を生み出すには若手が創業・起業しやすい環境の整備が必要と言える。

図表: 真岡市の黒字赤字企業比率と創業比率

#### 黒字赤字企業比率 2012年

産業:すべての大分類 > すべての中分類



### 創業比率



#### まとめ

- 真岡市の人口は栃木県全体同様に減少傾向にあるが、2013 年以降の転入が転出を上回り上昇傾向に転じてきた。
- 製造業の事業所数および従業者数は微減しつつも、製造品出荷額は 2011 年以降微増に転じている。
- 小売業の店舗数および従業者数が徐々に減少しており、にのみや地区のみならず市全体として 小売業の再興取り組みが必要となる。
- 当商工会としては、各事業所に対し積極的な販路拡大の計画を策定することが急務といえる。 今後、地域の小規模事業者に対し、IT 活用による販売促進や新たな商品開発、後継者育成 を踏まえた経営計画の策定を促し、業績向上と地区の活性化を図っていく。また地域の小規模 事業者の PR 活動を本事業において制作した企業・店舗紹介冊子等で広めるとともに、事業拡 大や新商品の開発などを視野に、経営計画を策定しバックアップを図る。また、若手経営者・後 継者の育成や、創業塾などの起業支援を積極的に行う。

栃木県芳賀郡二宮町は、2009 年 3 月 23 日に真岡市に編入した。本報告書は現在の行政区画 単位(真岡市を指す)において調査・集計された、各行政機関および民間団体の調査結果を基に纏 めている。そのため情報の精度は市町村合併を加味しない「真岡市」を指している場合がある。

# Ⅱ. 栃木県の情報

#### 1. 県民経済計算

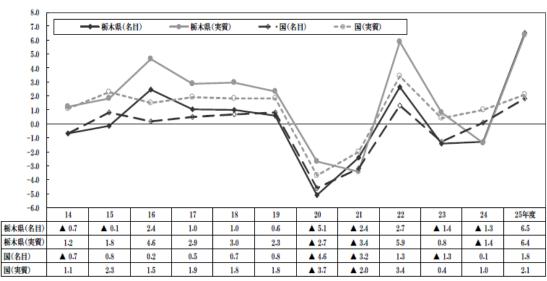
図表:県(国)民経済計算の概要

区分		単位	実数		対前年度増加率(%)	
		平世	24年度	25年度	24年度	25年度
i.e.	県内総生産(名目)	億円	77,271	82,322	<b>▲</b> 1.3	6.5
栃木	県内総生産(実質)	億円	85,573	91,022	<b>▲</b> 1.4	6.4
県	県民所得	億円	59,751	64,632	<b>▲</b> 0.3	8.2
78	一人当たり県民所得	千円	3,000	3,255	0.1	8.5
	国内総生産(名目)	億円	4,744,749	4,831,103	0.1	1.8
国	国内総生産(実質)	億円	5,196,318	5,305,915	1.0	2.1
EN	国民所得	億円	3,519,578	3,620,550	0.7	2.9
	一人当たり国民所得	千円	2,761	2,845	0.9	3.0

出典:栃木県「平成25年度県民経済計算の概要」

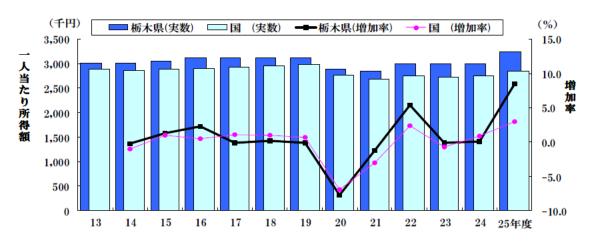
# 図表:経済成長率の推移

(%)



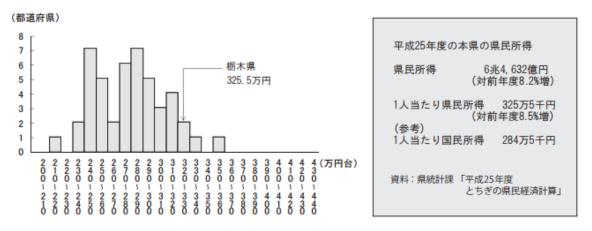
出典:栃木県「平成25年度県民経済計算の概要」

図表:1人あたり県(国)民所得の推移



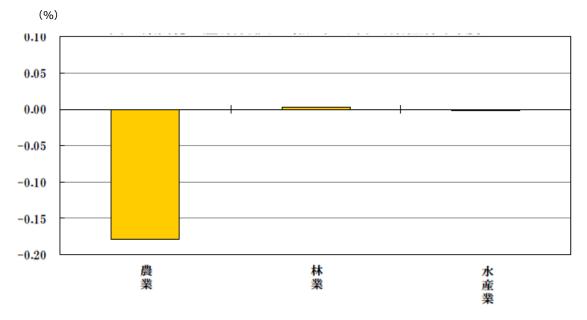
出典:栃木県「平成25年度県民経済計算の概要」

図表:1人あたり県民所得の分布状況



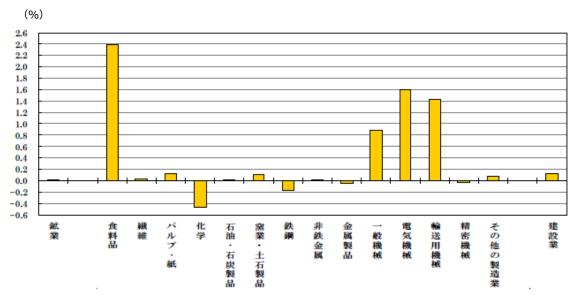
出典:栃木県「とちぎの統計情報」(2015年)

図表:県内総生産(名目値)の増加率に対する第1次産業の寄与度



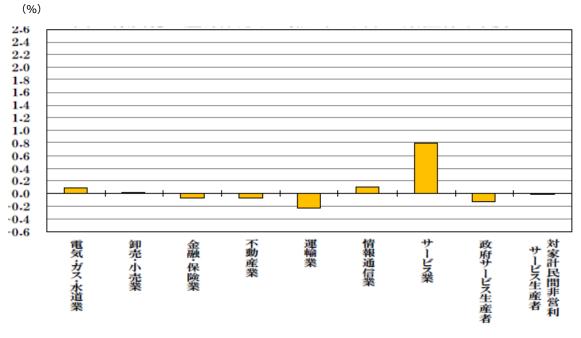
出典:栃木県「平成25年度県民経済計算の概要」

図表: 県内総生産(名目値)の増加率に対する第2次産業の寄与度



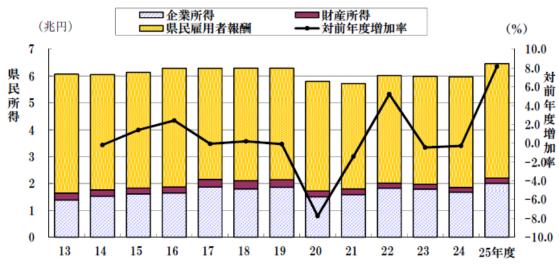
出典:栃木県「平成 25 年度県民経済計算の概要」

図表:県内総生産(名目値)の増加率に対する第3次産業の寄与度



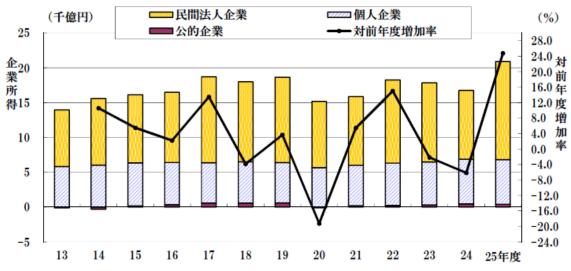
出典:栃木県「平成25年度県民経済計算の概要」

図表:県民所得(分配)の推移



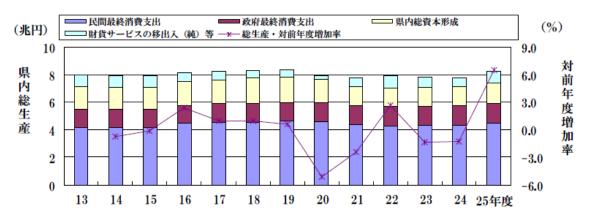
出典:栃木県「平成 25 年度とちぎの市町村民経済計算」

#### 図表:企業所得の推移

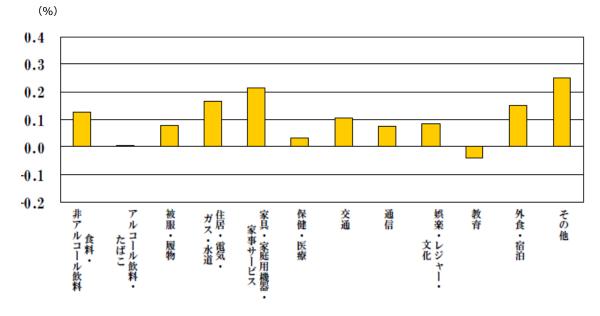


出典:栃木県「平成 25 年度とちぎの市町村民経済計算」

## 図表:県内総生産(支出側)の推移



図表: 県内総生産(名目値)の増加率に対する目的別増加寄与度



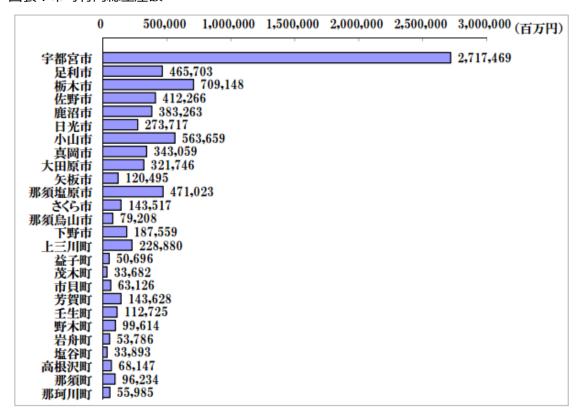
#### 2. 市町村民経済計算

図表:市町村内総生産額(名目)、対前年度比、構成比

(単位:百万円、%)

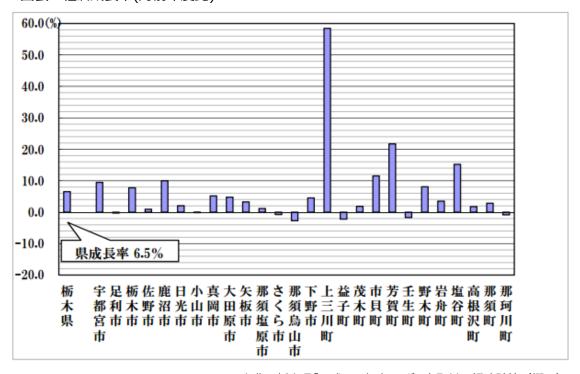
	(1							
	市	町村内総生産	額	対前年		構成比		
市町村		(名目)			率·名目)			
	24年度	25年度	増減	24年度	25年度	24年度	25年度	
栃 木 県	7,727,105	8,232,227	505,122	<b>▲</b> 1.3	6.5	100.0	100.0	
宇都宮市	2,482,312	2,717,469	235,157	<b>▲</b> 2.3	9.5	32.1	33.0	
足利市	466,988	465,703	<b>▲</b> 1,285	1.2	<b>▲</b> 0.3	6.0	5.7	
栃 木 市	658,253	709,148	50,895	3.3	7.7	8.5	8.6	
佐 野 市	408,400	412,266	3,866	<b>▲</b> 3.9	0.9	5.3	5.0	
鹿 沼 市	348,392	383,263	34,871	<b>▲</b> 2.7	10.0	4.5	4.7	
日 光 市	268,228	273,717	5,489	<b>▲</b> 1.0	2.0	3.5	3.3	
小 山 市	564,379	563,659	<b>▲</b> 720	<b>▲</b> 7.4	<b>▲</b> 0.1	7.3	6.8	
真 岡 市	326,215	343,059	16,844	3.6	5.2	4.2	4.2	
大田原市	307,134	321,746	14,612	<b>▲</b> 0.4	4.8	4.0	3.9	
矢 板 市	116,661	120,495	3,834	<b>▲ 5.8</b>	3.3	1.5	1.5	
那須塩原市	465,569	471,023	5,454	9.1	1.2	6.0	5.7	
さくら市	144,606	143,517	<b>▲ 1,088</b>	1.9	<b>▲ 0.8</b>	1.9	1.7	
那須烏山市	81,406	79,208	<b>▲</b> 2,198	<b>▲</b> 3.3	<b>▲</b> 2.7	1.1	1.0	
下 野 市	179,445	187,559	8,114	4.2	4.5	2.3	2.3	
上三川町	144,441	228,880	84,439	<b>▲</b> 24.8	58.5	1.9	2.8	
益 子 町	51,830	50,696	<b>▲</b> 1,134	4.7	<b>▲</b> 2.2	0.7	0.6	
茂 木 町	33,061	33,682	621	<b>▲</b> 1.3	1.9	0.4	0.4	
市貝町	56,589	63,126	6,537	23.6	11.6	0.7	0.8	
芳 賀 町	118,003	143,628	25,625	<b>▲</b> 3.7	21.7	1.5	1.7	
壬 生 町	114,656	112,725	<b>▲</b> 1,930	<b>▲</b> 0.0	<b>▲</b> 1.7	1.5	1.4	
野木町	92,162	99,614	7,451	6.3	8.1	1.2	1.2	
岩 舟 町	51,978	53,786	1,808	4.3	3.5	0.7	0.7	
塩 谷 町	29,411	33,893	4,481	<b>▲</b> 7.8	15.2	0.4	0.4	
高根沢町	66,962	68,147	1,184	<b>▲</b> 3.8	1.8	0.9	0.8	
那 須 町	93,551	96,234	2,683	<b>▲</b> 2.4	2.9	1.2	1.2	
那珂川町	56,473	55,985	<b>▲</b> 489	<b>▲</b> 5.7	<b>▲</b> 0.9	0.7	0.7	

#### 図表:市町村内総生産額

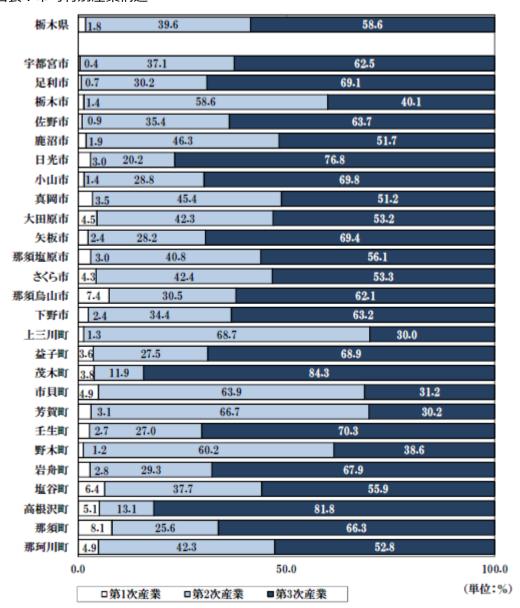


出典:栃木県「平成 25 年度とちぎの市町村民経済計算(概要)」

#### 図表:経済成長率(対前年度比)



図表:市町村別産業構造

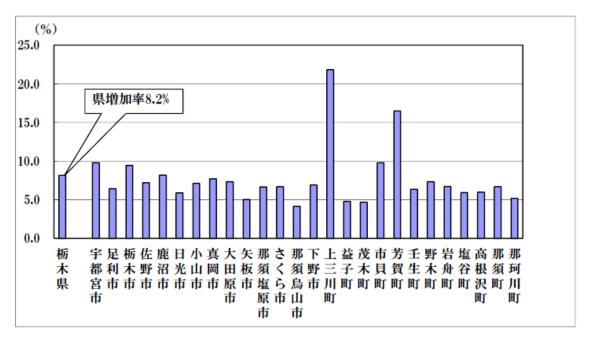


図表:市町村民所得額、対前年比、構成比

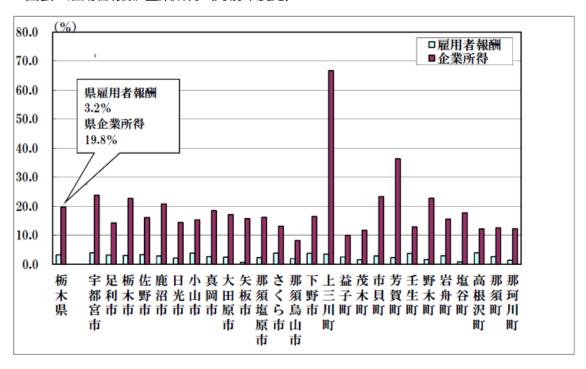
(単位:百万円、%)

	-	2021年日記得來	6	41444	e nie Lla	構成比			
市町村		方町村民所得額	Ą	対前年					
Lt mili	24年度	25年度	増 減	24年度	25年度	24年度	25年度		
栃 木 県	5,975,074	6,463,154	488,080	<b>▲</b> 0.3	8.2	100.0	100.0		
宇都宮市	1,709,596	1,876,795	167,199	<b>▲</b> 0.5	9.8	28.6	29.0		
足利市	416,876	443,652	26,776	<b>▲</b> 0.1	6.4	7.0	6.9		
栃 木 市	429,905	470,432	40,527	<b>▲</b> 0.1	9.4	7.2	7.3		
佐 野 市	338,228	362,595	24,367	<b>▲</b> 0.9	7.2	5.7	5.6		
鹿 沼 市	291,228	315,085	23,856	<b>▲</b> 0.3	8.2	4.9	4.9		
日 光 市	238,285	252,285	14,000	<b>▲</b> 0.4	5.9	4.0	3.9		
小 山 市	492,330	527,356	35,025	<b>▲</b> 0.5	7.1	8.2	8.2		
真 岡 市	239,036	257,424	18,388	0.3	7.7	4.0	4.0		
大田原市	218,308	234,255	15,947	0.0	7.3	3.7	3.6		
矢 板 市	93,850	98,553	4,703	<b>▲</b> 3.0	5.0	1.6	1.5		
那須塩原市	349,670	372,963	23,293	1.4	6.7	5.9	5.8		
さくら市	127,034	135,515	8,481	0.6	6.7	2.1	2.1		
那須鳥山市	75,543	78,679	3,136	<b>▲</b> 1.1	4.2	1.3	1.2		
下 野 市	186,429	199,279	12,851	1.5	6.9	3.1	3.1		
上三川町	99,333	120,999	21,666	<b>▲</b> 8.0	21.8	1.7	1.9		
益 子 町	62,741	65,735	2,994	1.9	4.8	1.1	1.0		
茂 木 町	35,512	37,174	1,662	<b>▲</b> 0.8	4.7	0.6	0.6		
市貝町	38,446	42,204	3,758	3.9	9.8	0.6	0.7		
芳 賀 町	54,558	63,547	8,990	<b>▲</b> 3.1	16.5	0.9	1.0		
壬 生 町	112,053	119,155	7,102	1.4	6.3	1.9	1.8		
野 木 町	77,593	83,266	5,672	<b>▲</b> 0.3	7.3	1.3	1.3		
岩 舟 町	49,981	53,327	3,346	0.8	6.7	0.8	0.8		
塩 谷 町	31,873	33,760	1,887	<b>▲</b> 1.0	5.9	0.5	0.5		
高根沢町	89,892	95,263	5,370	1.1	6.0	1.5	1.5		
那 須 町	69,511	74,154	4,643	0.4	6.7	1.2	1.1		
那珂川町	47,263	49,702	2,439	<b>▲</b> 1.5	5.2	0.8	0.8		

図表:市町村民所得(対前年度比)



図表:雇用者報酬・企業所得(対前年度比)



図表:所得の構成

art ton E	00.0	2.0	21.0
栃木県	66.0	3.0	31.0
宇都宮市	65.5	2.8	31.7
足利市	68.6	2.9	28.5
栃木市	62-4	2.9	34.7
佐野市	66.8	3.1	30.2
鹿沼市	65.6	3.0	31.3
日光市	66-8	2.9	30.2
小山市	69.4	2.9	27.7
真岡市	64.2	3.1	32.7
大田原市	63.4	2.9	33.8
矢板市	67.0	3.1	29.9
那須塩原市	65.2	3.0	31.8
さくら市	68-0	3.1	28.9
那須烏山市	65.2	3.2	31.6
下野市	73.0	3.4	23.6
上三川町	58-5	2.6	38.9
益子町	70.0	3.6	26.3
茂木町	67.2	2.9	29.9
市貝町	60.5	3.0	36.4
芳賀町	48.6 3.5		47.9
壬生町	70-2	3.4	26.5
野木町	67.8	3.0	29.2
岩舟町	67.6	3.2	29.2
塩谷町	65.8	3.4	30.8
高根沢町	74.7	3	21.7
那須町	57.9	3.4	38.7
那珂川町	63.6	3.1	33.3
0.0	50.0	)	100

## 3. 栃木県の工業製品、農産物

図表:栃木県が製造品出荷額第1位の工業製品

分類	製造品	出荷額 (百万円)	出荷額 (全国) (百万円)	全国順位	シェア (%)	年
木材・木製品	木質系プレハブ住宅	4,261	7,795	1位	54.7	H25
パルプ・紙・紙加工品	絶縁紙、絶縁テープ	1,453	3,054	1位	47.6	H25
プラスチック製品	硬質プラスチック発泡製品(厚板)(厚さ3mm以上)	21,030	93,060	1位	22.6	H25
金属製品	シャッタ	19,673	94,742	1位	20.8	H25
生産用機械器具	半導体製造装置の部分品・取付具・附属品	39,315	337,340	1位	11.7	H25
	工業用長さ計	8,472	33,750	1位	25.1	H25
業務用機械器具	歯科用機械器具、同装置	22,615	64,900	1位	34.8	H25
来纳州城市高兴	カメラ用交換レンズ	108,971	176,628	1位	61.7	H25
	光学レンズ	15,803	79,086	1位	20.0	H25
その他の製品	万年筆・シャープペンシル部分品、ペン先、ペン軸	713	3,795	1位	18.8	H25

資料:経済産業省「平成25年工業統計調査」

出典:「平成27年版 とちぎの指標」

図表:栃木県が収穫量上位の農産物

品目	収穫量 (トン)	収穫量 (全国) (トン)	全国順位	シェア (%)	年
いちご	25,400	164,000	1位	15.5	H26
二条大麦	35,900	113,000	1位	31.8	H27
かんぴょう	382	388	1位	98.5	H24
陸稲	709	2,700	2位	26.3	H27
(25)	11,000	61,400	2位	17.9	H26
こんにゃくいも	1,790	61,300	2位	2.9	H27
青刈りとうもろこし	237,200	4,823,000	2位	4.9	H27
日本なし	20,700	247,300	3位	8.4	H27
六条大麦	5,480	52,700	4位	10.4	H27

資料:農林水産省「作物統計」「特定作物統計調査」「地域特産野菜生産状況」

品目	栃木県	全国	全国順位	シェア (%)	年
乳用牛飼育頭数(頭)	53,500	1,371,000	2位	3.9	H27
生乳生産量(トン)	317,150	7,334,264	2位	4.3	H26

品目	出荷量 (千本)	出荷量 (全国) (千本)	全国順位	シェア (%)	年
スプレイぎく (切り花)	21,800	241,700	3位	9.0	H26

出典:「平成27年版 とちぎの指標」

#### 4. 栃木県内事業所数、従業者数等

図表: 県内事業所数

			<del></del>				
			事業所数	民		国、地方公共団体	
			H26	H24	H26 増減率 (%)		H26
栃	木	県	93,428	92,263	91,073	<b>1.</b> 3	2,355
	全国に占る 割合(%		1.6	1.6	1.6	-	1.6
全		囯	5,926,804	5,768,489	5,779,072	0.2	147,732

注1:民営事業所数(H24)は、すべての民営事業所数で、直近での比較が可能な24年活動調査を記載した。 注2:事業所数、民営事業所数及び国、地方公共団体の事業所数について、平成21年経済センサス - 基礎 調査と比較した状況は次のとおり。

・事業所数 8.3% 瀬(H21 101,926事業所) ・民営事業所数 8.4% 瀬(H21 99,390事業所) ・国、地方公共団体の事業所数 7.1% 瀬(H21 2,536事業所)

出典:栃木県「平成26年経済センサス-基礎調査」

#### 図表:県内従業者数及び1事業所あたり従業者数

			3¥ <b>3</b> 4× 34 1							
			従業者数			民営従業	者数			国、地方公共団体
			H26	H24	H26	増減率 (%)	男性	女性	1事業所 当たり 従業者数	H26
栃	木	県	931,021	865,025	871,483	0.7	495,380	375,756	9.8	59,538
	全国に占 割合(9		1.5	1.5	1.5	-	1.6	1.5	-	1.4
全		囯	61,788,853	55,837,252	57,427,704	2.8	31,939,449	25,402,926	10.4	4,361,149

注1:民営従業者数(H24)は、すべての民営事業所の従業者数で、直近での比較が可能な24年活動調査を記載した。

注2:従業者数、民営従業者数及び国、地方公共団体の従業者数について、平成21年経済センサス - 萎瓏調査と比較した状況は次のとおり。

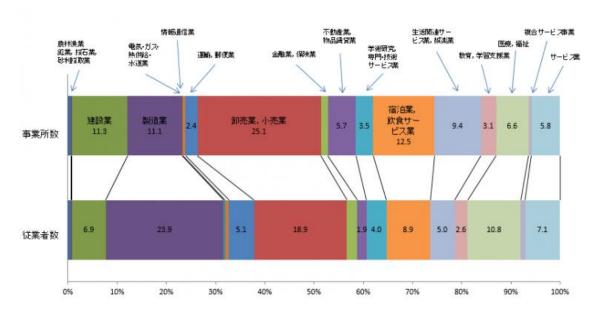
・従業者数 4.4%滅(H21 973,407人) ・民営従業者数 4.6%滅(H21 913,131人) ・国、地方公共団体の従業者数 1.2%滅(H21 60,276人)

注3:従業者數の「総数」には男女別が不詳の従業者を含むため、男性と女性の合計は「総数」と一致しない場合がある。

注 4:「従業者數」及び「1事業所当たり従業者数」は、必要な事項の数値が得られた事業所を対象として集計した。

出典:栃木県「平成26年経済センサス-基礎調査」

#### 図表:産業大分類別事業所数及び従業者数の構成比



出典:栃木県「平成26年経済センサス-基礎調査」

図表: 県内企業等数及び売上高

				企業等数		売上高				
			H24	H26	増減率 (%)	H24 (億円)	H26 (億円)	増減率 (%)	差引額(億円)	1企業等当たり 売上高 (万円)
栃	木	県	69,185	67,579	<b>▲</b> 2.3	100,353	95,324	▲ 5.0	▲ 5,029	16,078
	全国に占 割合(*		1.7	1.6	-	0.8	0.7	-	-	-
全		国	4,128,215	4,098,284	▲ 0.7	13,355,083	13,777,208	3.2	422,125	40,238

注1:企業等数(H24)は、直近での比較が可能な24年活動調査を記載した。

注2:「売上高」、「1企業等当たり売上高」は、必要な事項の数値が得られた企業等を対象として集計した。

出典: 栃木県「平成 26 年経済センサス-基礎調査」

## Ⅲ. にのみやプレミアム商品券に対する評価

#### 1. にのみやプレミアム商品券加盟事業者アンケート

#### (1) 調査の概要

#### 調査目的

にのみや商工会では、にのみや地域商業の活性化に向けて、にのみやプレミアム商品券事業の 有効活用を図ることを目的に、にのみやプレミアム商品券の効果等についてアンケート調査を行っ た。

#### 調査期間

平成 28 年 9 月~11 月

#### 調査方法

調査対象:にのみやプレミアム商品券加盟事業者 70 事業者のうち 62 事業者

調査方法:商工会職員がこのみやプレミアム商品券加盟事業者にアンケート用紙を配布し、

加盟事業者が記入

#### 調査結果の表記について

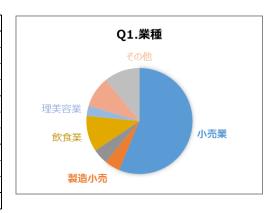
集計結果は、各設問の標本数を 100%とした百分比(%)で表し、小数点第 2 位を四捨五入している。

#### (2-1) にのみやプレミアム商品券加盟事業者の状況

#### Q1.業種(重複回答を含む)

小売業が56.3%と、半数を占めている。

業種	回答数	割合
小売業	36	56.3%
製造小売	3	4.7%
製造業	3	4.7%
飲食業	7	10.9%
宿泊業	0	0.0%
不動産業	0	0.0%
理美容業	2	3.1%
サービス業	6	9.4%
建設・建築業	7	10.9%
その他	0	0.0%
計	64	100.0%



## Q2.経営形態(未回答 2 件)

個人と法人が約半々である。

経営刑	態	回答数	割合
個人		33	55.0%
法人		27	45.0%
計		60	100.0%



### Q3.資本金(未回答 2 件)

個人事業が半数を占めており、1,000万以上の企業は3社である。

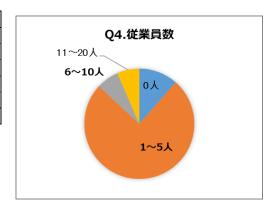
資本金	回答数	割合
個人事業	31	51.7%
1,000万以下	26	43.3%
5,000万以下	3	5.0%
1億以下	0	0.0%
1億以上	0	0.0%
計	60	100.0%



#### Q4.従業員数(未回答1件)

従業員数 5 人以下の事業者が 75.4%を占める。

従業員数	回答数	割合
0人(自分のみ)	7	11.5%
1~5人	46	75.4%
6~10人	4	6.6%
11~20人	4	6.6%
21人以上	0	0.0%
21人以上	61	100.0%



#### Q5.店舗の規模(未回答3件)

1事業者を除いては、全て店舗面積が1,000㎡未満の小型店である。

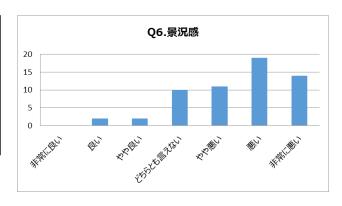
店舗の規模	回答数	割合
大型店(1,000㎡以上)	1	1.7%
小型店(1,000㎡未満)	58	98.3%
計	59	100.0%



#### Q6.にのみや地域の景況感(未回答 4 件)

「非常に悪い」「悪い」「やや悪い」を合わせると 75.9%となり、8 割近くの事業者がにのみや地域の景気について悲観している。

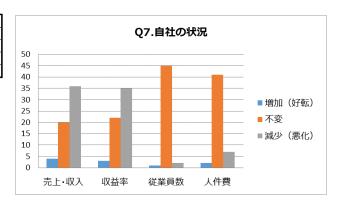
にのみや地域の景況感	回答数	割合
非常に良い	0	0.0%
良い	2	3.4%
やや良い	2	3.4%
どちらとも言えない	10	17.2%
やや悪い	11	19.0%
悪い	19	32.8%
非常に悪い	14	24.1%
計	58	100.0%



#### Q7.売上等の状況(前年との比較)

売上・利益・収益率ともに前年より減少した事業者が半数にのぼる。

自社の状況	増加	(好転)	不変	減少	(悪化)
売上・収入		4	20		36
収益率		3	22		35
従業員数		1	45		2
人件費		2	41		7

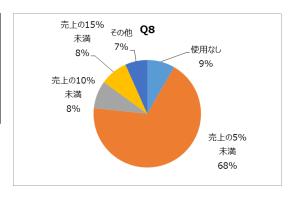


#### (2-2) にのみやプレミアム商品券の利用状況

## Q8.にのみやプレミアム商品券を利用するお客様の割合(未回答 2 件) 売上の 5%未満が 68.3%と、およそ 7 割を占めている。

分類	回答数	割合
使用なし	5	8.3%
売上の5%未満	41	68.3%
売上の10%未満	5	8.3%
売上の15%未満	5	8.3%
その他	4	6.7%
計	60	100.0%

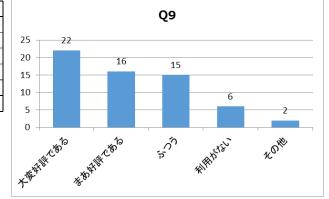
○「その他」について 売り上げの1%未満:4件



## Q9.にのみやプレミアム商品券に対するお客様の反応(未回答 1 件)

「大変好評である」「まあ好評である」を合計すると 62.3%と、半数以上のお客様から好評を得ている。

分類	回答数	割合
大変好評である	22	36.1%
まあ好評である	16	26.2%
ふつう	15	24.6%
利用がない	6	9.8%
その他	2	3.3%
計	61	100.0%



#### 自由記述

〇「その他」について

「毎年決まったお客様が使ってくれている。」

「利用件数が少ない」

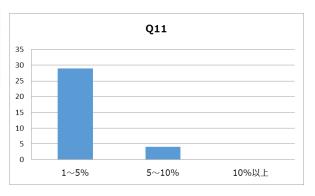
## Q10.商品券事業への参加による売上・利益の増加について(未回答 1 件) 半数以上の事業者が、売上の増加につながっている。

分類	回答数	割合
つながった(増加した)	32	52.5%
変わらない	23	37.7%
つながらない(減少した)	6	9.8%
計	61	100.0%



## Q11.Q10 にて売上が増加したと答えた 32 事業者は、何%上がったか(重複回答 1 件) 1~5%の増加が 87.9%と多くを占めている。

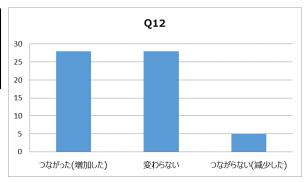
分類	回答数	割合
1~5%	29	87.9%
5~10%	4	12.1%
10%以上	0	0.0%
計	33	100.0%



## Q12. にのみやプレミアム商品券加盟店となったことで新規のお客様確保につながったか (未回答 1 件)

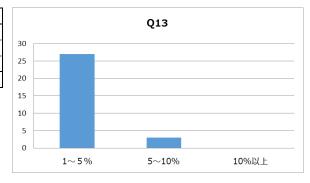
新規顧客獲得の効果があったと感じている事業者は45.9%で、変わらないと同率である。

分類	回答数	割合
つながった(増加した)	28	45.9%
変わらない	28	45.9%
つながらない(減少した)	5	8.2%
計	61	100.0%



# Q13.Q12 で「つながった」と答えた事業者は前年度より何%売上が増加したか(重複回答含む) 5%以上売上が増加した事業者は3件である。

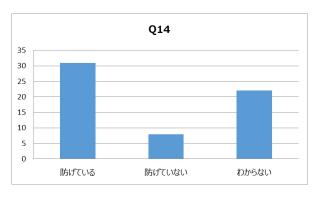
対前年度売上増加率	回答数	割合
1~5%	27	90.0%
5~10%	3	10.0%
10%以上	0	0.0%
計	30	100.0%



## Q14.にのみやプレミアム商品券加盟店となることで既存顧客の流出を防げているか (未回答 1 件)

にのみやプレミアム商品券加盟店となることで既存顧客の流出を防げていると感じている事業者 は半数である。

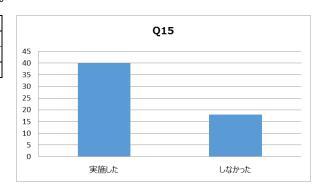
分類	回答数	割合
防げている	31	50.8%
防げていない	8	13.1%
わからない	22	36.1%
計	61	100.0%



#### Q15.この事業において販売促進を実施したか(未回答 4 件)

およそ7割の事業者が販売促進を実施した。

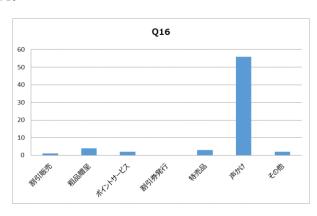
分類	回答数	割合
実施した	40	69.0%
しなかった	18	31.0%
計	58	100.0%



#### Q16.どのような販売促進を実施したか(重複回答含む)

8割の事業者が、来店者への声掛けを実施した。

販売促進活動の内容	回答数	割合
割引販売	1	1.5%
粗品贈呈	4	5.9%
ポイントサービス	2	2.9%
割引券発行	0	0.0%
特売品	3	4.4%
声かけ	56	82.4%
その他	2	2.9%
計	68	100.0%



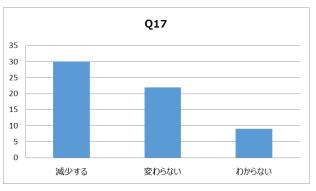
自由記述「その他」について

チラシ

商品券販売前に展示会を開催し商品券 PR を展開している

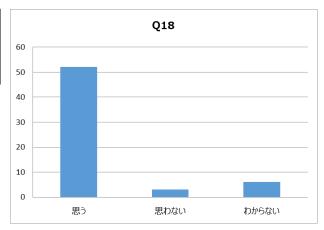
## Q17.商品券事業が中止された場合、売上はどうなると予測するか(未回答 1 件) およそ半数の事業者が、商品券事業が中止になると売上が減少すると見込んでいる。

分類	回答数	割合
減少する	30	49.2%
変わらない	22	36.1%
わからない	9	14.8%
計	61	100.0%



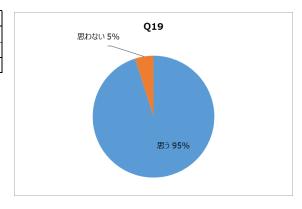
## Q18.にのみやプレミアム商品券は地元商店の活性化に有効な事業と思うか(未回答 1 件) 85.2%と多くの事業者が有効と感じている。

分類	回答数	割合
思う	52	85.2%
思わない	3	4.9%
わからない	6	9.8%
計	61	100.0%



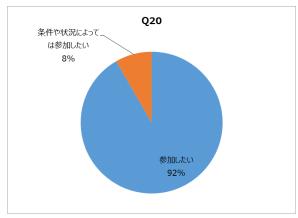
## Q19.来年度も商品券発行事業を実施すべきと思うか(未回答 1 件) 3 件の事業者を除き、9 割以上の事業者が実施すべきと思っている。

分類	回答数	割合
思う	58	95.1%
思わない	3	4.9%
≣†	61	100.0%



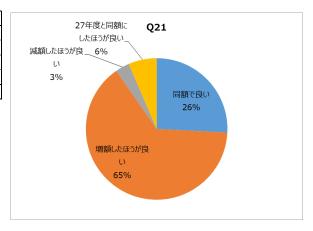
## Q20. 来年度も商品券発行事業を実施した場合、取扱店として参加するか(未回答 2 件) 条件や状況によってという事業者が 5 件あるが、参加しないと回答した事業者は無い。

分類	回答数	割合
参加したい	55	91.7%
条件や状況によっては参加したい	5	8.3%
参加しない	0	0.0%
計	60	100.0%



#### O21. 来年度も商品券発行事業を実施した場合、発行総額はいくらが適当だと思うか

分類	回答数	割合
同額で良い	16	25.8%
増額したほうが良い	40	64.5%
減額したほうが良い	2	3.2%
27年度と同額にしたほうが良い	4	6.5%
計	62	100.0%

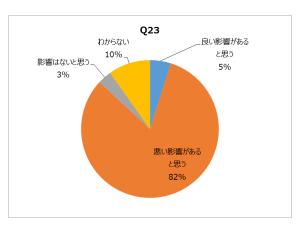


#### Q22.にのみやプレミアム商品券についての自由意見(聞き取り内容をそのまま記載)

- ・500 円券 2 枚を 1000 円券 1 枚にして 4400 万円にすれば良いと思います。
- ・プレミアム商品券の広告を増やした方が良いと思います。
- ・値引き分と考えるお客様が多いので、これからも安くできると思いがある方は商品券を使ってくれる のでつづけてほしい
- ・加盟店の増加
- ・地域住民も店も大変喜んでいるので、このまま続けてもらいたい。プレミアム商品券も 1 日半で完売してしまうのでもっと増額してもらいたい。
- ・地域の活性化につながっていると思います
- ・発行総額が少ないので購入できないお客様が今年も多数発生。発行額・取扱店の増加、商品 券知名度向上をふまえた上で発行総額増加は必須であると思う!!
- ・プレミアム商品券で購買意欲が上がるような声を聴きます。地元の店という認識が特に若い消費者の方に増えています。また、店の場所の問い合わせや扱い商品の問い合わせ等増えていきます。

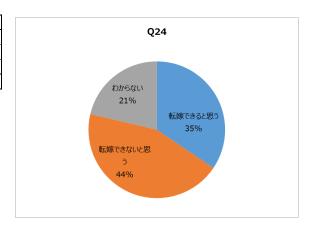
## Q23.今後、消費税率が 10%に引き上げられると業績に影響があると思うか(未回答 1 件) 多くの事業者が悪い影響があると感じている。

分類	回答数	割合
良い影響があると思う	3	4.9%
悪い影響があると思う	50	82.0%
影響はないと思う	2	3.3%
わからない	6	9.8%
計	61	100.0%



## Q24. 消費税率が 10%に引き上げられた場合、転嫁できると思うか 転嫁できないと思う事業者が、転嫁できると思う事業者を上回った。

分類	回答数	割合
転嫁できると思う	21	34.4%
転嫁できないと思う	27	44.3%
わからない	13	21.3%
計	61	100.0%



#### Q25.転嫁できないと思う理由について自由回答(聞き取り内容をそのまま記載)

- ・客が納得しない。建設業の場合増額が大きい。
- ・買い控えが起こり、消費が減退すると思われる
- ・年金世代が増え重税感が強くなり、消費も少なくなると思う
- ・8%から10%になった場合、2000万円で4~5万円のアップになります。この金額だとお客様から すれば値引として言いやすい金額なのでサービスになる可能性があるので、きびしくなる
- ・商品を値上げすると売れなくなってしまうと思います
- ・値上を感じられるため

#### (3) まとめ

にのみやプレミアム商品券加盟事業者は、商品券事業の効果の実感と、地元商店の活性化につ ながっていることを実感している。

しかし、現在のところは、売上増加、新規顧客獲得、既存顧客流出防止については、加盟による 明確な効果を感じている事業者は半数に留まっている。

にのみやプレミアム商品券について、特典の充実、加盟店の増加、利便性の向上等を図ることにより、お客様にとっての利用価値をさらに高めていく必要があるといえる。

また、加盟事業者には、対象商品の拡充やお客様への声かけ等で協力してもらい、一緒に商品券事業を盛り上げていってもらうことが望ましい。

#### 2. にのみやプレミアム商品券利用者アンケート

## (1) 調査の概要

#### 調査目的

にのみや商工会では、にのみや地域商業の活性化に向けて、にのみやプレミアム商品券事業の 有効活用を図ることを目的に、商品券の利用状況についてアンケート調査を行った。

#### 調査期間

平成 28 年 10 月~11 月

#### 調査方法

調査対象:にのみやプレミアム商品券利用者 102人

調査方法:商工会職員がにのみやプレミアム商品券加盟事業者にアンケート用紙を配布、加

盟事業者が店頭にて商品券利用客に手渡し、利用客が記入

#### 調査結果の表記について

集計結果は、各設問の標本数を 100%とした百分比(%)で表し、小数点第 2 位を四捨五入している。

未回答を除いて集計しているため、回答数は設問ごとに異なっている。

Q3について、2店舗挙げている回答は、Q2での回答が3店舗以上ある場合にのみカウントしている。3店舗以上挙げている回答は無効としている。

#### (2-1) にのみやプレミアム商品券利用者の状況

#### ○性別(未回答1件)

回答者は、女性が69.3%と、およそ7割を占めている。

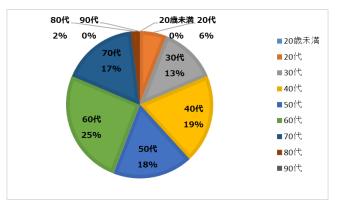
分類	回答数	割合
男性	31	30.7%
女性	70	69.3%
計	101	100.0%



#### ○年代

#### 20代~70代までバランス良く回答が得られた。

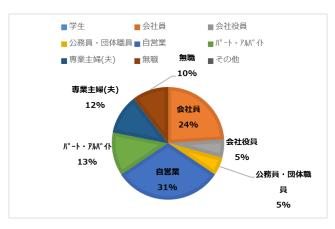
分類	回答数	割合
20歳未満	0	0.0%
20代	6	5.9%
30代	13	12.7%
40代	20	19.6%
50代	18	17.6%
60代	26	25.5%
70代	17	16.7%
80代	2	2.0%
90代	0	0.0%
dž	102	100.0%



#### ○職業 (未回答 6 件)

最も多いのが自営業者、次いで会社員となっている。

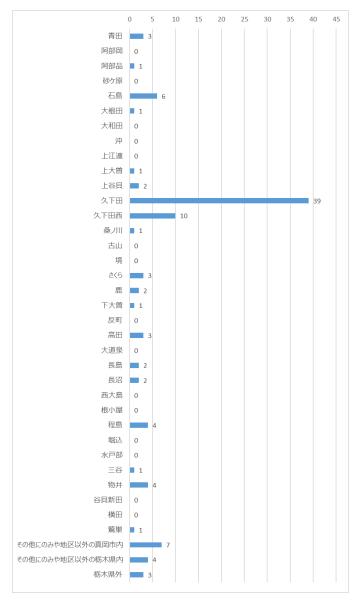
職業	回答数	割合
学生	0	0.0%
会社員	23	24.0%
会社役員	5	5.2%
公務員・団体職員	5	5.2%
自営業	30	31.3%
パ°-ト・アルバ <sup>*</sup> イト	12	12.5%
専業主婦(夫)	11	11.5%
無職	10	10.4%
その他	0	0.0%
計	96	100.0%



#### ○居住地区(未回答1件)

#### 居住地区は久下田が38.6%と最も多く、近隣住民の利用が主である。

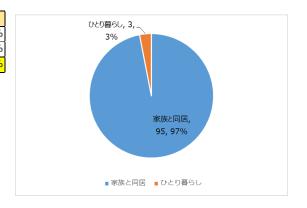
分類	回答数	割合
青田	3	3.0%
阿部岡	0	0.0%
阿部品	1	1.0%
<b>砂ケ原</b>	0	0.0%
石島	6	5.9%
大根田	1	1.0%
大和田	0	0.0%
沖	0	0.0%
上江連	0	0.0%
上大曽	1	1.0%
上谷貝	2	2.0%
久下田	39	38.6%
久下田西	10	9.9%
桑ノ川	1	1.0%
古山	0	0.0%
境	0	0.0%
さくら	3	3.0%
鹿	2	2.0%
下大曽	1	1.0%
反町	0	0.0%
高田	3	3.0%
大道泉	0	0.0%
長島	2	2.0%
長沼	2	2.0%
西大島	0	0.0%
根小屋	0	0.0%
程島	4	4.0%
堀込	0	0.0%
水戸部	0	0.0%
三谷	1	1.0%
物井	4	4.0%
谷貝新田	0	0.0%
横田	0	0.0%
<b>鷲巣</b>	1	1.0%
その他にのみや地区以外の真岡市内	7	6.9%
その他にのみや地区以外の栃木県内	4	4.0%
栃木県外	3	3.0%
計	101	100.0%



## ○世帯構成(未回答4件)

家族と同居している人が9割以上である。

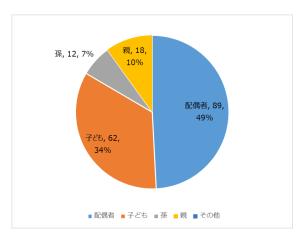
分類	回答数	割合
家族と同居	95	96.9%
ひとり暮らし	3	3.1%
計	98	100.0%



#### ○同居家族(複数回答含む)

配偶者との2人暮らし、配偶者と子どもとの同居のほか、多世代での同居も多いことが窺える。

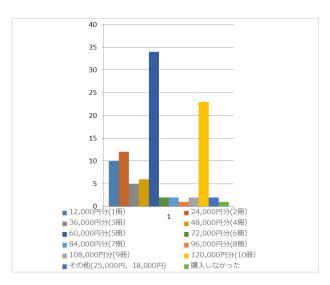
分類	回答数	割合
配偶者	89	49.2%
子ども	62	34.3%
孫	12	6.6%
親	18	9.9%
その他	0	0.0%
計	181	100.0%



#### (2-2) にのみやプレミアム商品券の利用状況

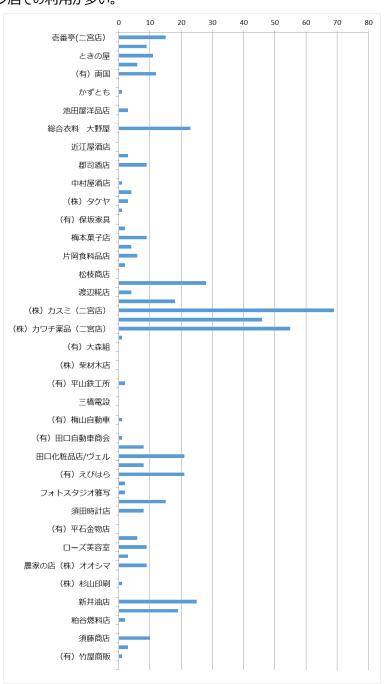
## Q1.にのみやプレミアム商品券の購入額 60,000 円分(5 冊)が最も多く、次いで 120,000 万円分(10 冊)となっている。

分類	回答数	割合
12,000円分(1冊)	10	10.0%
24,000円分(2冊)	12	12.0%
36,000円分(3冊)	5	5.0%
48,000円分(4冊)	6	6.0%
60,000円分(5冊)	34	34.0%
72,000円分(6冊)	2	2.0%
84,000円分(7冊)	2	2.0%
96,000円分(8冊)	1	1.0%
108,000円分(9冊)	2	2.0%
120,000円分(10冊)	23	23.0%
その他(25,000円、18,000円)	2	2.0%
購入しなかった	1	1.0%
計	100	100.0%



## Q2.にのみやプレミアム商品券加盟店でよく利用する店舗(複数回答可) カワチ薬品やカスミなどの大型チェーン店での利用が多い。

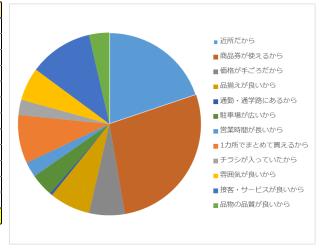
分類	回答数	割合
壱番亭(二宮店)	15	2.9%
九庵	9	1.79
ときの屋	11	2.19
アルボルト	6	1.19
(有) 両国	12	2.39
松喜	0	0.09
かずとも	1	0.29
桂屋	0	0.09
池田屋洋品店	3	0.69
衣料・クリーニング エビハラ	0	0.09
総合衣料 大野屋	23	4.49
	}	
日向野履物店	0	0.09
近江屋酒店	0	0.09
小倉屋酒店 	3	0.69
郡司酒店	9	1.79
島田酒店	0	0.09
中村屋酒店	1	0.29
市井酒店	4	0.89
(株)タケヤ	3	0.69
トミヤ	1	0.29
(有) 保坂家具	0	0.09
横山家具店	2	0.49
梅本菓子店	9	1.79
大森商店	4	0.89
片岡食料品店	6	1.19
福田屋	2	0.49
松枝商店	0	0.09
141×191/16 洋菓子のしばの	28	5.49
渡辺糀店	4	0.89
道の駅にのみや(株)二宮金次郎商店	18	3.49
(株) カスミ (二宮店)	69	13.29
(株) エコス(二宮店)	46	8.89
(株)カワチ薬品(二宮店)	55	10.5%
(有) 枝製畳	1	0.29
(有) 大森組	0	0.09
(有) 久保田栄瓦店	0	0.09
(株)柴材木店	0	0.09
(有) ハヤセ	0	0.09
(有) 平山鉄工所	2	0.49
谷口畳店	0	0.09
三橋電設	0	0.09
麦倉建設工業	0	0.09
(有)梅山自動車	1	0.29
大福地モータース	0	0.09
	ļ	
(有)田口自動車商会	1	0.29
(株)杉村薬局 	8	1.59
田口化粧品店/ヴェル	21	4.09
町田薬局	8	1.59
(有)えびはら	21	4.09
亀田クリーニング店	2	0.49
フォトスタジオ雅写	2	0.49
(有)柴山金物店	15	2.99
須田時計店	8	1.59
竹村文具陶器店	0	0.09
(有)平石金物店	0	0.09
フラワーショップ花良	6	1.19
ローズ美容室	9	1.79
美容室フィーユ	3	0.69
	9	1.79
農家の店(株)オオシマ		
デコレーション 藤野工業(株)	0	0.09
(株) 杉山印刷	1	0.29
真岡自動車教習所 	0	0.09
新井油店	25	4.89
上野油店	19	3.69
粕谷燃料店	2	0.49
清水商店	0	0.09
須藤商店	10	1.99
竹村商店	3	0.69
(有) 竹屋商販	1	0.29
	1	0.29
若松商店	0	0.09



## Q3.Q2 で答えた店舗を利用する理由(複数回答可)

商品券が使えるからという理由が最多となり、利用意向が高いことが窺える。

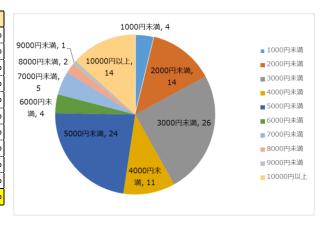
分類	回答数	割合
近所だから	44	19.8%
商品券が使えるから	61	27.5%
価格が手ごろだから	14	6.3%
品揃えが良いから	16	7.2%
通勤・通学路にあるから	1	0.5%
駐車場が広いから	9	4.1%
営業時間が長いから	6	2.7%
1力所でまとめて買えるから	19	8.6%
チラシが入っていたから	6	2.7%
雰囲気が良いから	13	5.9%
接客・サービスが良いから	25	11.3%
品物の品質が良いから	8	3.6%
計	222	100.0%



## Q4.Q2 の店舗での平均購入金額(複数回答可)

2,000 円~5,000 円分の利用に回答が集中している。

/\ \\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\		thul A
分類	回答数	割合
1000円未満	4	3.8%
2000円未満	14	13.3%
3000円未満	26	24.8%
4000円未満	11	10.5%
5000円未満	24	22.9%
6000円未満	4	3.8%
7000円未満	5	4.8%
8000円未満	2	1.9%
9000円未満	1	1.0%
10000円以上	14	13.3%
計	105	100.0%



#### Q5.Q2の店舗でよく購入する品目・利用するサービス(聞き取り内容をそのまま記載)

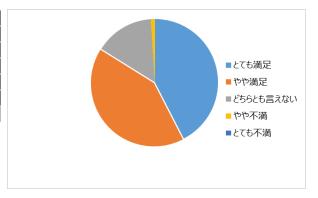
食料品	カップラーメン	洗剤	トイレットペーパー
化粧品	ガス代	農薬	建築資材
美容ドリンク	石油	薬品	洗車
ファンデーション	衣料	生活雑貨	金物
魚	文具	消耗品	学校の体操着
農業資材	酒	うな重	作業服
ガソリン	生活用品	菓子類	老人用オムツ
日用品	薬	花	雑貨
サプリメント	貴金属類	灯油	農工具
パン	本	理容関係	工具
うどん	ティッシュ	燃料	タイヤ
オイル交換	自動車のメンテ用品		

## Q6.商品券利用可能店舗で取り扱って欲しい商品・サービス 現状のままで良いとの回答 1 件

#### Q7.商品券利用可能店舗数に満足しているか(未回答3件)

「とても満足」「やや満足」を合計すると、概ね利用可能店舗数には満足しているといえる。

分類	回答数	割合
とても満足	42	42.4%
やや満足	41	41.4%
どちらとも言えない	15	15.2%
やや不満	1	1.0%
とても不満	0	0.0%
計	99	100.0%



### Q8.商品券利用可能店に加盟して欲しいお店は? (聞き取り内容をそのまま記載)

コンビニ	横田商店
床屋	てらしま
特になし	理容店
ウエルシア	出光(ガソリンスタンド)
佐藤ラーメン	コメリ
ツタヤ	マハロ
大型電気店	蛸屋

# Q9.大型スーパー、個人店それぞれどのくらいの頻度で買い物をするか 大型店は「週 $2\sim3$ 回」と「週 1 回」、個人店では「週 1 回」と「月に 1 回」が多く、大型店での

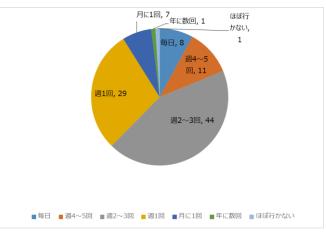
#### ■大型スーパー(未回答1件)

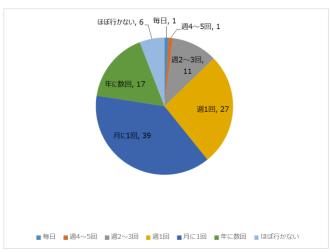
分類	回答数	割合
毎日	8	7,9%
週4~5回	11	10.9%
週2~3回	44	43.6%
週1回	29	28.7%
月C1回	7	6.9%
年に数回	1	1.0%
ほぼ行かない	1	1.0%
青十	101	100.0%
m I	101	100.070

買い物頻度が高いことが窺える。

#### ■個店

分類	回答数	割合
毎日	1	1.0%
週4~5回	1	1.0%
週2~3回	11	10.8%
週1回	27	26.5%
月に1回	39	38.2%
年に数回	17	16.7%
ほぼ行かない	6	5.9%
計	102	100.0%

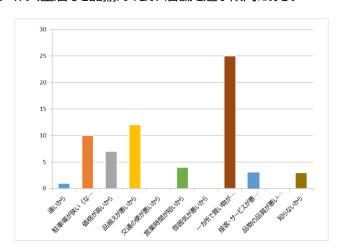




#### Q10.個人店を利用しない理由は何か

1 箇所で買い物が済まないという理由が多く、大型店など品揃えの良い店舗を選ぶ傾向にある。

分類	回答数	割合
遠いから	1	1.5%
駐車場が狭い(ない)から	10	15.4%
価格が高いから	7	10.8%
品揃えが悪いから	12	18.5%
交通の便が悪いから	0	0.0%
営業時間が短いから	4	6.2%
雰囲気が悪いから	0	0.0%
一力所で買い物が済まないから	25	38.5%
接客・サービスが悪いから	3	4.6%
品物の品質が悪いから	0	0.0%
知らないから	3	4.6%
計	65	100.0%



## Q11.来年もプレミアムがついた商品券が発行されたら購入するか(未回答 1 件)

「わからない」との回答があるものの、「購入しない」との回答は無い。

分類	回答数	割合
購入する	87	86.1%
わからない	14	13.9%
購入しない	0	0.0%
計	101	100.0%



#### Q12.にのみやプレミアム商品券に関する自由意見(聞き取り内容をそのまま記載)

- ・真岡市と共通にして欲しい
- ・来年度も発行して欲しい
- ・すべて大型店で使えるようにして欲しい
- ・1 人当たりの金額を少し増やして頂きたい
- ・今までどおりで良い
- ・来年も購入するかわかりませんがまた楽しみです
- ・平日に売り出しなので土日分も用意してほしい
- コンビニでも使えるといい
- ・発行枚数を増やしてほしい!
- ・利用期限の延長、又は、利用期間の変更。 (年末や年度末に利用することが多い店舗もある)
- ・プレミアムがついた商品券の販売の終りが早いので買求めるのが大変です。
- ・同じお金を使うのにこれだけサービスがあれば家計もたすかります。
- ・家族が少ないと使用する機会(買物の金額も)がだんだん無くなりますが畳や網戸などにも使用できるのはありがたいです。
- ・家族でもっと購入したかったが売り切れていて希望額購入できなかったのでもう少し発行額を 増やして欲しいです。
- ・もっと地元の活性化のために、商品券をたくさん発行してもらいたい。
- ・商品券(プレミアム)の販売の終りが早いので買求めるのが忙しいです。
- ・販売金額を増やしてほしい。
- ・500 円券ではなく、千円券にしてほしい。
- ・1 枚が 1000 円の方が良い。
- ・プレミアムがついた商品ぜひ発行して下さい。

#### (3) まとめ

年齢層広く回答が得られたが、内容の傾向には影響していない。

購入額は60,000円(5冊)が最も多い。

利用に関しては大型店に偏っている。

店舗の利用理由として、「商品券が使えるから」を挙げる人が 27.5%となっていることから、にのみやプレミアム商品券が集客に寄与していることが窺える。

加盟店数については、概ね満足している感があるが、より加盟店の増加を望む声もある。

商品券の発行に関しては地域住民にも浸透し、買い物時の利用促進に繋がっていると言える。

発行部数の増加や販売期間の延長を求める声もあり、地域住民のにのみやプレミアム商品券における支持は高いものといえる。

次年度の発行はもちろん、部数増加や500円券の発行など、地域住民の声にどのように応えていく か当面考慮すべき点といえる。

## 3. アンケート項目

(1) にのみやプレミアム商品券加盟事業者向けアンケート用紙

## にのみやプレミアム商品券加盟事業者アンケート

Q1.貴店の業種について	あてはまるものをお選び	ください		
□小売業  □製造小売	□製造業  □飲食	業  □宿泊業  □不	動産業  □理美容業	
□サービス業 □建築	・建設業 □その他(		)	)
Q2.経営形態についてお	答えください			
□個人  □法人				
Q3.資本金についてお答	えください			
□個人事業(個人事業主	:) □1,000万以下 □	□5,000万以下 □1億	以下 □1億以上	
Q4.従業員数についてお	答えください(パート・)	アルバイト含む)		
□0人(自分のみ) □:	1~5人  □6~10人	□11~20人 □21人	以上	
Q5.店舗の規模について	お答えください			
□大型店(1,000㎡以上)	) □小型店(1,000n	n未満)		
Q6.にのみや地域の景気	についてどのように感じ	ますか?		
□非常に良い □良い	□やや良い □どちらと	も言えない □やや悪い	□悪い □非常に悪い	٧١
Q7.前年と比べて当ては	まる箇所へ☑をつけてくか	<b>どさい</b>		
	増加(好転)	不変	減少 (悪化)	
売上・収入				
収益率				
従業員数(パート・アルバイト含む)				
人件費				
Q8.貴店にて商品券はど	の程度使われましたか?			
□使用なし □売上の	5%未満 □売上の10	%未満 □売上の15%	未満	
□その他(およそ、売上	の %未満)			
Q9.商品券に対するお客	様の反応はいかがですか	?		
□大変好評である □ま	あ好評である □ふつう	□利用がない		
□その他(具体的に:				)
Q10.商品券事業に参加し	<b>」たことで売上・利益の</b> 増	曽加につながっていますか	٧?	
□つながった(増加した	) □変わらない	□つながらない(減少し	た)	
Q11.Q10で「つながった	としとお答えの方は前年原	度より売上は何パーセント	<b>〜増加しましたか?</b>	
□1~5% □5~10%	□10%以上			
Q12.商品券利用可能店	となったことで新規のお客	<b>客様確保につながりました</b>	<b>:か</b> ?	
□つながった(増加した	.) □変わらない		た)	
Q13.Q12で「つながった	た」とお答えの方は前年原	度より新規顧客は何パーも	マント増加しましたか? マント増加しましたか?	
□1~5% □5~10%	□ 10%以上			
O14.商品券利用可能店	となることで既存顧客の流	<b>ニューロー エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エ</b>		
□防げている □防げ				
	こおいて販売促進に向けて			
□実施した ⇒Q16へ	□しなかった ⇒Q			
Q16.どのような販売促進活動を実施しましたか?				
	呈 □ポイントサービ			
□その他(具体的に:	主 ロバイントサービ	人 山部切分光1]	口特元品 口声がり)	)

Q17.商品券事業が中止された場合、貴店の売上はどうなると予想されますか?				
□減少する □変わらない □わからない				
Q18.商品券は地元商店の活性化に有効な事業だと思いますか?				
□思う  □思わない  □わからない				
Q19.来年度も「にのみやプレミアム商品券」発行事業を実施すべきだと思いますか?				
□思う  □思わない				
Q20.来年度も「にのみやプレミアム商品券」発行事業を実施した場合、取扱店として参加しますか?				
□参加したい □条件や状況によっては参加したい □参加しない				
Q21.来年度も「にのみやプレミアム商品券」発行事業を実施した場合、発行総額はいくらが適当と思いますか?				
※平成28年度発行総額は4,400万円(平成27年度は8,800万円)				
□同額で良い □増額したほうが良い □減額したほうが良い □27年度と同額にしたほうが良い				
Q22.「にのみやプレミアム商品券」について自由にご意見をお聞かせください。				
Q23.今後、消費税率が10%に引き上げられると業績に影響はあると思いますか?				
□良い影響があると思う □悪い影響があると思う □影響はないと思う □わからない				
Q24.消費税率が10%に引き上げられた場合、転嫁できると思いますか?				
□転嫁できると思う □転嫁できないと思う □わからない ⇒Q25へ				
Q25.転嫁できないと思う理由は何ですか?自由にお聞かせください。				

ご協力ありがとうございました。

## にのみやプレミアム商品券利用アンケート

性別	□男性  □女性				
年代	□20歳未満 □20代 □30代 □40代 □50代 □60代 □70代 □80代 □90代				
1141/ <del>111/</del>	□学生 □会社員 □会社役員 □公務員・団体職員 □自営業				
職業	□パート・アルバイト □専業主婦(夫) □無職 □その他				
居住地区	□青田 □阿部岡 □阿部品 □砂ケ原 □石島 □大根田 □大和田 □沖 □上江連 □上大曽 □上谷貝 □久下田 □久下田西 □桑ノ川 □古山 □境 □さくら □鹿 □下大曽 □反町 □高田 □大道泉 □長島 □長沼 □西大島 □根小屋 □程島 □堀込 □水戸部 □三谷 □物井 □谷貝新田 □横田 □鷲巣 □その他にのみや地区以外の真岡市内 □その他真岡市以外の栃木県内 □栃木県外				
世帯構成	□家族と同居 □ひとり	暮らし			
同居家族	□配偶者 □子ども □	孫 □親 □その他 (複数回答可)			
Q1.あなたの	D世帯では『プレミアム商	i品券(以下、商品券)』を合計何円分	}購入されましたか?		
□12,000円分 (1冊) □24,000円分 (2冊) □36,000円分 (3冊) □48,000円分 (4冊) □60,000円分 (5冊) □72,000円分 (6冊) □84,000円分 (7冊) □96,000円分 (8冊) □108,000円分 (9冊) □120,000円分 (10冊) □その他 ( )円分 ( 冊) □購入しなかった					
Q2.普段よく	(お買い物をする、または	<b>商品券を主に利用するのは、次のどの</b>	)お店ですか?(複数回答可)		
	【飲食店】	【食料品小売等】	【薬局・化粧品】		
□壱番亭(□	二宮店)		□(株)杉村薬局		
□九庵			□田口化粧品店/ヴェル		
□ときの屋			□町田薬局		
□アルポル	<b> </b>	□福田屋	【生活関連】		
□(有)両国			□(有)えびはら		
□松喜			□亀田クリーニング店		
□かずとも			□フォトスタジオ雅写		
□桂屋			□(有)柴山金物店		
			□須田時計店		
		. ,	□竹村文具陶器店		
□衣料・クリーニングエビハラ			□(株)平石金物店		
□総合衣料大野屋			□フラワーショップ花良		
□日向野履物店		【建築・建設関連】	□□ーズ美容室		
	【酒小売】	□(有)枝製畳	□美容室フィーユ		
□近江屋酒店	占	□(有)大森組	□農家の店(株)オオシマ		
□小倉屋酒店	占	□(有)久保田栄瓦店	□デコレーション 藤野工業(株)		
□郡司酒店		□(株)柴材木店	□(株)杉山印刷		
□島田酒店		□(有)ハヤセ	□真岡自動車教習所		
□中村屋酒店		□(有)平山鉄工所	【ガソリンスタンド・燃料小売】		
4		□谷口畳店	□新井油店		
【家具・寝具】		□三橋電設	□上野油店		
□(株)タケヤ		□麦倉建設工業	□粕谷燃料店		
□トミヤ		【自動車関連】	□清水商店		
□(有)保坂家具		` '	□須藤商店		
□横山家具原	占	□大福地モータース	□竹村商店		
□(有)田口自動車商会 □(有)竹屋商販					
			□若松商店		

Q3.Q2のお店をよく利用する理由は何ですか?あてはまるものに☑をつけてください							
□近所だから □商	品券が使えるから	う □価格が	手ごろだから	□品揃え	が良いから		
□通勤・通学路にあ	□通勤・通学路にあるから □駐車場が広いから □営業時間が長いから □1カ所でまとめて買えるから						
□チラシが入ってい	たから □雰囲気	気が良いから	□接客・サ	ナービスが良	いから 口品	品物の品質が	良いから
Q4.Q2のお店での-	一回の購入金額平均	匀はどのくら	いですか?				
□1,000円未満 □	2,000円未満 🗆	3,000円未満	島 □4,000F	∃未満 □5,	000円未満		
□6,000円未満 □	7,000円未満 🗆	8,000円未満	萌 □9,000F	日未満 □10	0,000円以上		
Q5.Q2のお店でよく	、購入する、もし・	くは利用する	<b>サービスは</b> (	可ですか?			
Q6.商品券利用店舗	で取り扱って欲し	い商品・サ	ービスがあれ	ば自由にお	聞かせくださ	い	
Q7.商品券利用店舗	数に満足されてま	すか?					
□とても満足 □	やや満足 □ と	どちらとも言	えない	やや不満	口とても不	満	
Q8.商品券利用店に	加盟して欲しいお	店・または	事業所があれ	ば自由にお	聞かせくださ	い	
Q9.お買い物をする	のはどれくらいの	頻度ですか	?大型スーハ	一・個店そ	れぞれに☑を	つけてくだる	きい
種別	毎日	週4~5回	週2~3回	週1回	月に1回	年に数回	ほぼ行かない
大型スーパー							
個店							□→Q10 <b>^</b>
Q10.個店を利用した						回答可)	
□遠いから□駐車	, ,						
□交通の便が悪いか					一力所で買い	)物が済まな	いから
□接客・サービスが							
Q11.来年度もプレ				構入しますた	), <u>`</u>		
□購入する □れ							)
Q12.商品券に関する	るご意見等ありま	したら自由に	こお聞かせく	ださい。			

ご協力ありがとうございました。

【作成/監修】 株式会社UI志援コンサルティング 〒329-2711 栃木県那須塩原市石林 317番地 9 BSPビル 2F 中小企業診断士 東 健司